

国語の主張発表会③

English education for junior school students not appropriate for today's society.

3年C組

今日は、日本の英語教育についてお話しします。皆さんの中にも、「学校で6年間も英語を勉強したのに、ちっとも話せるようにならない」と感じたことがある方は多いのではないのでしょうか。なぜ、こんなことが起こるのでしょうか。それは、今の英語教育が「使える英語」と「勉強する英語」の間で、大きなズレを起こしているからです。この根底には、3つの大きな問題があります。

1. 失敗を恐れるような文化

まず、私たちは間違いを恐れる文化の中で育まれました。自分の意見を表明することだけでも大変なのに、英語となるとさらにハードルが高くなります。しかし、語学力は間違いを経験することで最も向上します。失敗を経験し、それを乗り越えることで、人は強くなるのです。現在の教育システムは、この「挑戦する勇氣」を育むことができていません。

2. 機会の不足

学校以外で英語を使う機会は非常に限られています。さらに、学校の授業は、文法と読解に重点が置かれています。その結果、話すことと聞くことの練習が圧倒的に不足し、得た知識がコミュニケーション能力に繋がることはありません。

3. 入試至上主義

政府は、英語教育の改革に取り組んでいますが、現在の大学入試は依然として読み書きに偏っています。そのため、現場の教育は必然的にこれらの試験対策に重点をおかざるを得ません。聞く、話す、読む、書くという4技能をバランスよく評価システムがない限り、この悪循環は止まらないでしょう。

結論として、現在の日本英語教育は、現在社会に合致していないと言わざるを得ません。このままでは、真に国際社会で活躍できる人材は育たないでしょう。教育者や政府が目指すべきは、テストの点数ではなく、実際にコミュニケーションできる「使える英語」を身に付ける教育です。そのためには、失敗を恐れずに挑戦できる環境を作り、実践的なコミュニケーションの機会を増やしていくことが不可欠なのです。

3年A組

私たちの周りには様々な紙があります。「ペーパーレス」と言われるこの時代に紙はあるべきでしょうか、なくても良いのでしょうか。私たちの身近な紙に本があります。私たちは普段、朝読書で紙の本を読んでいます、何の媒体で読んでいますか。このグラフを見てください。グラフからわかるように、電子書籍を利用する人は全体の80%以上であることがわかります。しかし、私は紙の媒体で本を読んでいるのですが、紙の本は、目に優しくったり、ブルーライトでないので集中できたり、記憶定着が良かったり、貸し借りができたりなど、たくさんの良いことがあります。しかし、いくら紙に良さがあると言ってもゴミになるのだから、環境に悪いのではないかという意見もあると思います。そこで、私がおすすめするのは古紙回収です。古紙回収では使わなくなった教科書、プリントなどの紙を回収、リサイクルし、貴重な森林資源を守れる仕組みとなっています。しかし、日本で古紙回収はされているのでしょうか。結論として、日本の古紙回収率は世界的に見ても高いです。しかし、100%でないのを見てわかるように、古紙回収されていないものもあります。そこで私は、古紙回収されていない量を計算してみました。まず、日本の1人当たりの紙の消費量に人口をかけ、そこに古紙回収されていない割合をかけました。すると、約400万トンもの紙が回収されていないことがわかりました。もちろん古紙回収できないものもあったとは思いますが、古紙回収せずに燃えるゴミに捨てたものも多いのではないのでしょうか。世界で見ても古紙回収率は高くても、少しでも古紙回収に回すよう工夫が必要だと思います。ここまでの例を通して、私は紙はあるべきだと思います。紙には、目に優しくったり、記憶定着が良かったり、といった科学的な利点も、手書きできるいわゆる「アナログ」としての良さもあります。だからと言って何においても紙を使うべき、ということではありません。紙の利点を活用しながら、デジタルと紙を共生させることが大切なのだと考えます。

【11月の予定】

- 4日(火) 専門委員会 17日(月)生徒朝会
5日(水) 区中研のため45分授業 避難訓練
 午前授業 23日(日)ESAT—J受験日
8日(土) 土曜授業 27日、28日(金)進路判定会のため
 道徳地区公開講座
10日(月) 学校朝会
11日(火)⑤⑥面接の受け方講座
12日(水) 期末考査（音、数、国）
13日(木) 期末考査（技家、英、社）
14日(金) 期末考査（保体、美、理）